

# 事業報告

〔自 平成 29 年 4 月 1 日 至 平成 30 年 3 月 31 日〕

## I 会社の現況に関する事項

### 1 事業の経過及びその成果

我が国の経済は、海外経済が緩やかに回復する中、輸出や生産の持ち直しによって企業収益は過去最高となり、雇用・所得環境も改善し、個人消費や民間企業設備投資など国内需要も持ち直すなど、好循環が進展し緩やかな回復が続いております。

一方、平成 29 年 1 月～12 月におけるライブ・エンタテインメント市場も公演数、動員数、売上高の総てにおいて前年を上回っております。

このような中、当大阪城ホールは本年で開業から 35 年を迎えますが、この間、積極的なセールスプロモーションを展開し、全国的規模のコンサート・文化・スポーツ行事や集会式典などの多彩なイベント開催によってアリーナの高稼働を維持しつつ、関連業界のビジネスチャンスの拡大、ひいては大阪経済の発展にも寄与しておりますが、大規模集客施設として、より安全・安心・快適なホールをめざしまして、施設の整備保全のみならず、防災・テロ対策訓練などソフト面の安全管理対策にも積極的に取組むとともに、大阪のスポーツ芸術文化の振興に対しても積極的な協賛と寄附を行ってまいりました。

平成 29 年度のアリーナの稼働日数は 331 日（本番日数 194 日）、稼働率では 90.7%となり、昨年度の稼働日数 330 日（本番日数 203 日）を上回り過去最高の実績となりましたが、近年の関連業界における労働環境改善に向けた取組みの影響から、設営準備日が増加する傾向を受け利用単価の高い本番日が減少したため、事業収入は 20 億 19 百万円と、前年度（20 億 86 百万円）に比し減収となり、これに、広告料収入等の関連事業収入 97 百万円（前年度 97 百万円）を加えた総売上高は 21 億 17 百万円と、前年度（21 億 83 百万円）に比し 3.0%の減となりました。

一方、売上原価は、契約の見直しによる光熱水費の減、減価償却費、本番日の催物運営委託費などの減により10億63百万円と、前年度（10億81百万円）を下回り、販売費及び一般管理費の1億8百万円と合わせた費用合計は11億72百万円と、前年度（11億86百万円）を下回りました。

この結果、当期の営業利益は9億45百万円（営業利益率44.6%）、経常利益は9億62百万円（経常利益率45.4%）となり、法人税等を差し引いた当期純利益は、前年度当期純利益（6億59百万円、純利益率30.2%）を下回ったものの、6億26百万円（当期純利益率29.6%）を確保することができました。